

フランス、ビュールより 寿都町の住民の皆さんへの連帯メッセージ

住民への事前説明や話し合いをすることなく、寿都町長が放射性廃棄物の埋設処分施設候補に応募すると決定したことに対し住民の反対があることを知り、ぜひこのメッセージをみなさんに送りたいと思いました。

フランスのオンライン新聞 Médiapart に 2022 年 2 月 28 日に掲載されたジョアン・フルーリーの記事¹を読んで、私たちに起きたこととあまりにも重なるので、大きく心を揺さぶられました。「ゴミの村になる」「自治体のやり方に透明性がない」、「漁港のイメージが破壊されるのが心配」「町の発展のための補助金を得たい町長」「20 億円が二つの自治体（寿都と神恵内）にそれぞれ支払われる」... 私たちにとってこれらはすべて既視感があります。

フランスでは 1980 年代に、最終処分場のための候補地いくつかが地元住民との事前協議もなく選定され、強い抗議にあいました。そして 1987 年には、放射性廃棄物埋設のために 4ヶ所が政府によって恣意的に選ばれました。住民、農民、地元議員の大きな反対運動と全面的な拒否に遭って政府は、1991 年以降戦略を変えました。地元の経済発展と国家への貢献を公的に認知する約束と引き換えに、自治体から自発的応募を奨励するようになりました。この時点から埋設施設という表現はやめ、最終的な処分とは違う「実験のための研究所」というアプローチにしたのです。

応募した自治体から 3 カ所が選ばれ、500 万フラン²がすぐに交付されました。同時に地元議員や学校に対し、熱心な世論誘導が行われました。現地で事前調査が行われ、そこではいくつもの不正が目立ちました。住民から多くの懸念や反論が表明されたにもかかわらず、このプロジェクトはよしとする結論が出されました。

こうして放射性廃棄物管理機関（ANDRA³）は最終埋設場を念頭におきながら、ムーズ県の小さな町ビュールに「研究所」を設置しました。ビュールが選ばれたのはことに人口が少ないことが理由で、他の場所より地質が有利だったわけではありません。その後明らかになった建設地の規模は、周辺の村々にも影響を与える巨大なものでした。

研究所の設立以来、毎年多額の資金がこの地域に交付され、町の美化や建物の維持、道路の改修など、寿都で行われているのと同じ戦略が展開されています。そのため村々は絵葉書のようにりましたが、この地域から住民はどんどん減っています。

自治体に提供される資金は膨れ上がり、ピカピカの箱物の建設や、地元の小規模経営者の賛同を札束で買うために使われています。住民を安心させるために公開討論会が開かれますが、そこで出された地元の意見は全く考慮されません。反対する人々の一部は沈黙を拒否し、デモ、占拠、講演会、フェスティバル、文書、法的手段など、さまざまな形で抗議運動を続けています。

¹ <https://www.mediapart.fr/journal/international/280222/suttsu-au-japon-se-revolte-contre-le-stockage-de-dechets-nucleaires>

² 1994 年当時のレートで約 9500 万円強。

³ Agence nationale pour la gestion des déchets radioactifs

こうした行動で ANDRA のプロジェクトの進行が遅れ、透明性が欠如していることや弱点が明らかになっても、政府と原子力産業は見て見ぬふりを続け、ひたすら邁進しています。一方で、SAFER⁴ と ANDRA はプロジェクトに足りない土地や、交換条件となりうる土地を獲得しようと手を携えて動き、土地所有者、特に農民に圧力をかけています。実験のための研究所に方向転換してから 30 年経った今、CIGEO⁵ のプロジェクトは認可されていないものの、資金面、技術面の困難や、住民に受け入れられないなどの問題を無視しながら進捗し続けています。

2022 年 7 月 8 日、政府がこのプロジェクトの公益性を認めたので、ANDRA は土地を収用し工事に着手する権限を得ました。この公益性は、現地事前調査で意見が揃わなかったにもかかわらず、認められたものです。4,158 件の意見のうち、CIGEO に反対する署名運動 3 件では 2,129 筆が集まりました。さらに、2021 年に提出された環境当局の意見書では、ANDRA が提出した CIGEO の影響調査の不明な点や欠陥が警告されています。

ビュールについて語りたいことは山ほどありますが、このメッセージの目的は、日本とフランスでの類似性を強調することではなく、寿都町での闘いに対し支持を表明することです。

私たちは、寿都の人々が子どもや孫の安全を心配するのは当然だと考えます。景観や経済活動の破壊を恐れるのは当然だと思います。行政当局の透明性の欠如を糾弾するのは当然です。このプロジェクトは無害ではなく、この土地に住む人々、そして未来の世代に、何百年にもわたって影響を与えるものだからです。

放射性廃棄物埋設センターは危険であり、土地やそこに住む人々の生活・安全に影響を及ぼします。したがって住民の意見を無視するなど全く不当です。当局の約束とは裏腹に放射性廃棄物埋設プロジェクトは、私たちの地域を荒廃させ、将来の経済発展を阻止するものです。誰も放射性廃棄物処分場のそばになど住みたくありません。この土地を発展させるという嘘で、プロジェクトを受け入れさせようとしているのです。

このメッセージは、寿都町の住民のみなさんに連帯を表明するために書きましたが、同時に日本の他の市民にも向けています。別の土地に住む日本の人々が、寿都町で反対しているみなさんをサポートして欲しいと思っているからです。

核廃棄物の埋設を宿命と受け入れる必要はありません。人の力と意志があっこそ廃棄物が産まれるのですから、私たちには行動するという選択があります。それはまさに私たちの道徳的な義務なのです。

2022 年 9 月 7 日

⁴ Société d'aménagement foncier et d'établissement rural (地方不動産施設管理会社)。フランスでは農地の売買は規制されている。SAFERは農業省および財務省の監督下にあり、農地の売買の規制、仲介機関。農地を購入し、地方開発の企画などに従い、公的、民間のプロジェクトに売却する。

⁵ Centre industriel de stockage géologique (地層処分産業センター)

署名団体

- CACENDR (Collectif d'Actions contre l'ENfouissement des Déchets Radioactifs)
放射性廃棄物埋設反対活動グループ
- CEDRA (Collectif contre l'Enfouissement des Déchets RAdioactifs)
放射性廃棄物埋設反対グループ
<https://cedra52.jimdofree.com/>
- EODRA (Elu.e.s Opposé.e.s à l'Enfouissement des Déchets RAdioactifs)
放射性廃棄物埋設に反対する議員
- および反対する市民たち

参考資料（フランス語）

<https://fr.calameo.com/read/0060224692d7b0b53e756>

（翻訳：遠くの隣人 3.11、よそものネット・フランス、Sayonara Nukes Berlin）